

令和 6 年度 事業 報告 書

(事業の概要)

1 研究助成事業

(計 画) 薬力学の研究に従事する若手研究者に対する研究費の補助として総額 400 万円 (4 名から 5 名) を助成する。

毎年、ホームページ上に募集要項を公開し、研究助成金交付対象者の公募を行っている。

選考方法は、審査委員による応募書類を審査のうえ審査委員会を開催し、その結果を理事会に報告する。 理事会は当該報告を受けて、助成対象者を決定し、助成金を授与する。

(内 容) 募集要項は令和 6 年 6 月 7 日から令和 6 年 9 月 30 日まで、ホームページ上に公開したうえで、医・歯・薬学系の学部を有する、全国の国公立大学の研究支援・産学連携部門・広報部門等への周知のため、UMIN (大学病院医療情報ネットワーク) への掲載や各機関へのメール送信等でお知らせした。

その結果、28 名の応募者があった。

令和 6 年 12 月 25 日審査委員長より理事長あてに審査結果報告があり、令和 7 年 1 月 20 日臨時理事会において、下記 5 名に各 100 万円の助成金を授与することを決定した。

1. 熊 谷 尚 悟

所 属：国立がん研究センター研究所 研究員

研 究 題 目：カイニン酸型グルタミン酸受容体阻害薬の抗腫瘍免疫応答増強効果に関する検討

2. 森 雄太郎

所 属：東京科学大学大学院医歯学総合研究科テニユアトラック助教

研 究 題 目：患者由来オルガノイドを用いた慢性腎臓病共通病態の探索と創薬

3. 南 聡

所 属：大阪大学 大学院医学系研究科 特任助教

研 究 題 目：オートファジー創薬の実現に向けた、ヒト糖尿病性腎臓病の病態解明

4. 堀 武志

所 属：東京科学大学生体材料工学研究所 助教

研 究 題 目：母体-胎児間の境界における薬力学を拓くヒト胎盤細胞培養モデルの開発

5. 室 龍之介

所 属：東京理科大学研究推進機構生命医科学研究所 助 教

研 究 題 目：mRNA 製剤に固有の免疫活性化機構の解明

なお、助成金は、受賞者所属大学（機関）の寄附金等受入規程に則り、7年3月6日及び3月25日に各々振込手続きを行った

また、研究助成金授賞式に関しては、学術講演会開催準備期間と重複し、対応が困難なことから、各受賞者に対して研究助成通知書を郵送した。

2 学術講演会等の開催及び助成事業

（計 画） 薬力学に関する学術講演会、研究討論会を開催し及びそれらに対する補助として以下を助成する。

- 2024年度「薬力学に関する学術講演会、研究討論会」の開催及びそれに対する補助として52万円（学術講演会等開催費用・助成金6万円、特別講演謝金1名分12万円、交通費8万円、会場借料6万円、印刷製本日20万円）を助成する。

（内 容） 今年度は、本研究会主催の学術講演会を令和7年2月27日（木）18時から20時25分までお茶の水医学会館9階大会議室にて開催した。

開催に際してはポスターを作成し、配布・掲示した。

なお、講演内容は以下のとおり。

（特別講演）

水 澤 英 洋 氏（国立精神・神経医療センター 理事長特任補佐・名誉理事長）

演 題「難病の克服へーゲノム医療からー」

（研究助成金授賞講演）

助 川 明 香 氏（東京科学大学 医歯学総合研究科ウイルス制御学分野 講師）

演 題「革新的な HIV 感染症治療戦略をめざした薬剤候補化合物の創薬展開および作用機序解析」

瀬 戸 克 年 氏（愛知県がんセンター 呼吸器外科部医長）

演 題「バイオインフォマティクスに基づく間質性肺炎合併肺癌、術後急性増悪のメカニズム解析」

稲 垣 雅 仁 氏（名古屋大学 理学研究科物質理学専攻 特任助教）

演 題「メッセンジャーRNA 医薬の部位特異的科学修飾導入による翻訳活性への影響解明」

周 越 氏（富山大学 学術研究部がん細胞生物学研究室 助教）

演 題「受容体型チロシンキナーゼ EphA2 の非定型的活性化を介した細胞遊走」

以上の講演を行い、講演終了後活発な質疑応答が行われた。参加者は、当財団役員、評議員の他研究者、薬剤師、製薬企業社員など多岐に及び、約25名が参加した。

講演会終了後、演者を囲む会を催し、今後の講演会の在り方など活発に意見交換がなされた。

また、研究助成金授賞講演者の研究を纏めた「薬力学研究会 助成研究報告集 2023年度」を

作成し、3月中旬には、当該受賞者、本研究会 評議員、理事、監事、審査委員他関係者に配布した。

3 献体業務助成事業

(計 画) 薬力学の進歩発展のために、医学教育及びこれらに関連する献体業務に対し30万円を助成する。この助成は、医学教育に欠かせない人体解剖実習に必要な献体業務への支援であり、医療人教育に貢献している。さらに、不特定多数の利益（健康増進と医療内容の向上）に寄与し、広く人類の福祉への貢献につながる事業である。

助成の実施に関しては、東京医科歯科大学（現 東京科学大学）より助成内容について申請を受け、内容について審査を行ったうえで助成を決定している。

(内 容) 今年度は、令和6年10月4日、東京科学大学に対し、30万円の助成を実施するとともに、大学の献体の会事務局を通じて篤志解剖全国連合会の会費支援等を行っている。

4 教育助成事業

(計 画) 東京医科歯科大学大学院の教育の充実を図ることで薬力学の進歩発展に寄与するため、11万円を助成する。

当該大学院に対し助成するこの助成は、東京医科歯科大学（現 東京科学大学）大学院を支援、充実させることにより、優秀な研究者を輩出し、研究の進歩、高度化を図ることを目的とする。このことは不特定多数の利益（健康増進と医療内容の向上）に寄与し、広く人類の福祉への貢献につながる。

助成の実施に関しては、東京医科歯科大学より助成内容について申請を受け、内容について審査を行ったうえで助成を決定する。

(内 容) 今年度は、令和6年10月8日、東京科学大学に対し、19万円の助成を実施した。

5 学術出版助成事業

(計 画) 例年刊行の助成を行ってきた「お茶の水医学雑誌」の廃刊に伴い、本年度は本事業を休止する。

(内 容) 本事業を休止とした。

令和6年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため作成しておりません。

令和7年5月
公益財団法人薬力学研究会